

- 管内でのえだまめ作付け面積は、基盤整備を契機に拡大し、H27年には29haであったものが、R3年には80haにまで拡大した。
- しかし、水田転換畑等の排水不良地での作付けや栽培技術不足により、出荷量が不安定である。
- 栽培技術講習会や個別指導を重点的に行う事で、大規模栽培法人での単収が向上した。また、新型機械の導入とその使用方法について適切な指導を行うことで収穫能力が大きく向上した。

具体的な成果

1 栽培技術向上支援

マルチ作型における省力除草体系の普及に向けた講習会を開催し、土壌処理剤を利用した省力体系の導入を促進

令和3年 0件 ⇒ 令和4年 3件

2 排水対策支援

カットブレーカー、パラソイラによる施工を行った実証区を設置し、排水条件改善の効果について現地実証を行った。

結果、実証区では大雨直後の排水性が改善され、収量が対照区より1割増となった。



降雨後の排水状況 左：実証区 右：対照区

3 先端技術導入支援

新型収穫脱莢機の現地適応性試験の結果、法人の収穫能力が向上した。

回収率 76%(7月)⇒ 90%(9月)

4 大規模法人の安定生産に向けた支援

重点指導対象とした5法人に管内JAと普及員による個別指導を実施

指導5法人 平均単収

令和3年 241kg/10a

令和4年 251kg/10a

普及指導員の活動

令和4年度

1 「えだまめ情報」を発行し、適期栽培管理技術の指導を行った。

2 作型ごとに講習会を実施し、作型により異なる栽培時の注意点や防除について指導を行った。

3 大規模法人の技術を新規作付者に普及させるため、目揃会や新規作付者ほ場での講習会を実施

4 大規模法人向けの個別指導の他、JAの個別相談会で重点指導対象5法人に対し播種計画策定の支援を実施した。

普及指導員だからできたこと

・新型機械導入の際に、農業試験場やメーカーと綿密な打ち合わせを行い、現地導入の際に円滑な実証と指導を行うことが出来た。

・管内JAと連携し、新規作付者と既存の大規模法人をつなぎ、栽培技術の普及を行い、新規作付者の技術向上に繋がった。

秋田県

地域におけるえだまめの長期安定出荷体制の確立

活動期間：令和4年度～

1. 取組の背景

当該地域管内では、H27年より大規模園芸団地を核とした野菜（えだまめ、ねぎ）の生産振興を進めてきた。えだまめのH27年の作付面積は29haであったが、共選施設の整備（H28）や、基盤整備を契機とした大規模栽培法人の生産拡大により、R3年で80haまで拡大。今後も新規作付者の参入等、さらなる面積拡大が見込まれているものの、水田転換畑等の排水不良地での作付や栽培技術の不足により、出荷量の年次変動も大きく、安定したえだまめ生産体制の確立が喫緊の課題となっている。

2. 活動内容（詳細）

- ・「えだまめ情報」の発行
栽培管理上重要な時期や、各作型ごとの重要な管理点などを、必要な時期にお便りとして発行した。
- ・作型ごとの講習会の開催



中晩成以降の品種の主要害虫であるダイズサヤタマバエの防除に係る研修会を開催し、適期防除の重要性について指導。極早生作型ではマルチ作型や除草剤の使用について講習を実施し、省力栽培について指導した。

- ・新規作付者への技術支援
篤農家と連携し、栽培技術指導や新規作付者ほ場での現地指導を行うことで、新規作付者の栽培管理技術の向上を図った。
- ・大規模栽培法人の重点指導
管内の主要なえだまめ作付け法人5法人に対して管内JAと協力して重点的なほ場巡回、指導を行うことで、防除等の適期作業を促し収量・品質の向上に繋がった。

3. 具体的な成果（詳細）

- ・栽培技術向上支援
極早生品種の安定生産に向けた講習会を播種前の時期に開催し、マルチ

作型の技術向上支援を行った。マルチ作型は低温期でも草丈が確保出来、収量向上に繋がった。また、省力化技術として、土壌処理剤による除草体系についても講習を行った結果、3件の生産者が導入し、省力化の効果が現れた。

- ・排水対策支援

管内2か所のほ場でそれぞれカットブレーカーまたはパラソイラを用い



て排水対策実証ほを設置し、施工した際の排水効果を確認した。現地にて説明会を開催し、排水対策の有効性について説明を行った。実証区では排水性が改善され、収量が向上した。

- ・先端技術導入支援

新型の収穫脱莢機について、メーカー、農業試験場と事前に打ち合わせ



を実施し、使用方法について詳細に打ち合わせることで、実証時にオペレーターに対する指導が効果的に出来たため、収量の向上につながり回収率が7月収穫の76%から9月収穫時は90%まで向上した。

- ・大規模法人の安定生産に向けた支援

管内の主要な法人に対して個別で指導を行う事で栽培技術を向上させ令和3年の平均単収241kg/10aから251kg/10aに向上した。

4. 農家等からの評価・コメント（秋田市A氏）

地域の高い技術を持った農家と連携して講習会等を行った事で、栽培時の管理の違いが分かって自分の技術向上につなげる事が出来たので良い取組だと思う。

5. 普及指導員のコメント（秋田地域振興局・主幹・菊池 英樹）

令和4年は大雨があったが排水性対策実証ほでは未実施のほ場より排水が効率よく行われたため効果を実感出来た。講習会やほ場巡回は繁忙期に参加

者が減ってしまうので工夫が必要になると実感した。

6. 現状・今後の展開等

新型収穫脱莢機の使用について、従来の収穫方法と比べると製品率が向上しており、導入した農家自身も効果を実感している。しかし、農業試験場での実証と比較するとまだ取りこぼしが多いことから、オペレーターの技術向上が必要である。